

【男鹿市】

校務DX計画

秋田県では、校務のデジタル化により教職員の働き方改革を進めることで、児童生徒一人一人に向き合う時間を確保するとともに、介護や子育て中の教職員の働き方を柔軟化して、負担を軽減することを目指し、令和5年度、フルクラウド型の秋田県小中学校等統合型校務支援システム（以下「統合型校務支援システム」という。）を構築した。県域で統一したシステムを将来的には全市町村で導入する予定になっている。

男鹿市では、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、このシステムを令和6年4月から導入しており、システムの活用において、保護者連絡システムでの欠席等情報や、学校等欠席者・感染症情報システム等とのデータ関係や、通知表、指導要録、調査書の一体化により、手入力作業の大幅な削減に取り組む。また、これを契機に紙ベースの業務見直しや、FAXでのやり取り・押印の見直しを推進する。

多様な働き方の実現に向け、多要素認証等の強固なアクセス制御を前提としたセキュリティ対策の下、パブリッククラウド上のシステム活用により、ロケーションフリーでの柔軟な働き方の実現が可能となるようルールを見直す。また、県共通テナントでのアカウント利用により、汎用クラウドツールの共通化が可能となるため、学校関係者のコミュニケーションの活性化を図る。さらに、校務支援システムの活用により、有事の際でも、教職員・児童生徒の安否確認、オンライン授業で学びを継続させる等、優先度の高い業務の継続性を担保する。